

インターネットエクスプローラは、マイクロソフトの提供するブラウザである。急速に進化をしてきたが、最も新しいバージョンの3.0では、標準規格の採用はリアルオーディオ程度だった2.0に対して、フレームの処理を始めとしたHTML3.2とそのスタイルシートのほか、Java、ActiveXコントロール、各種スクリプト、そしてネットスケープのプラグインがそのまま使えるようになり、かなり強力なブラウザに仕上がっている。

次期バージョンは、97年上半の出荷が予定されているので、これから約半年の間は、このバージョンが、マイクロソフトが全力で取り組む主力戦略製品として、さまざまなプラットフォーム用に無料配布され、徹底的なシェア拡大がもくろまれている。

マイクロソフトは、デザインコンセプトとして次の4点を強調している。

1. ツールバーの表示や、リンクボタンのURL設定をユーザー独自で行える。

2. 現在の業界スタンダードであるネットスケープナビゲーターと同じ機能、表現力を実現し、ユーザーがエクスプローラに移行するのをうながす。

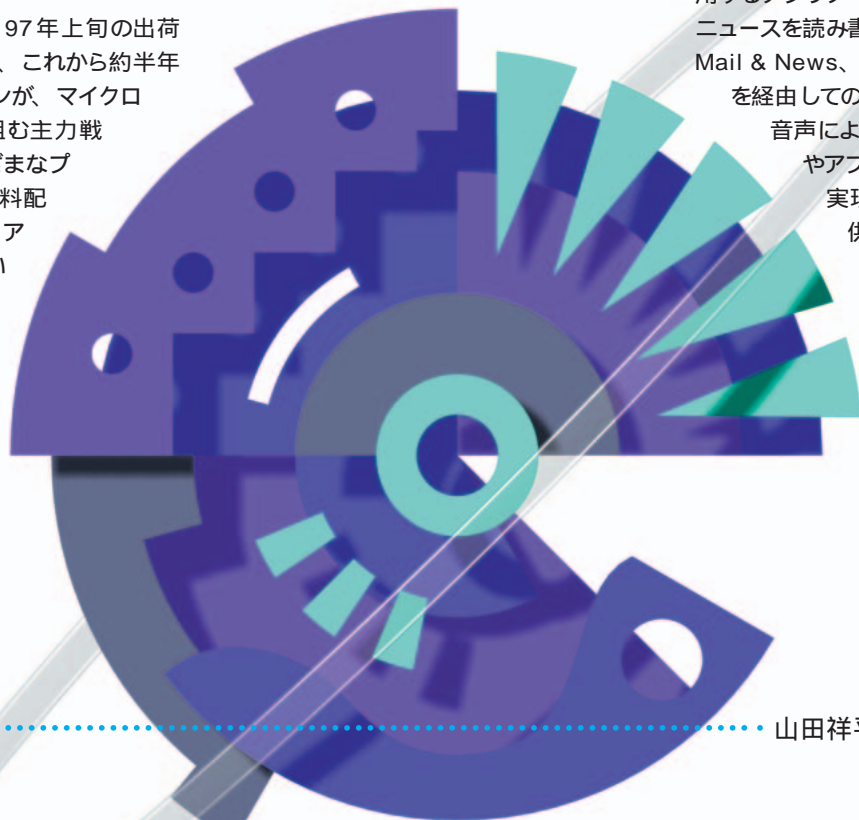
3. ActiveXなどの新しいテクノロジー

の採用により、簡単に拡張できる構造を持っている。また、それらの仕様は完全に公開されたオープンなものである。

4. UNIXやマッキントッシュ版などのリリースが予定されるクロスプラットフォーム対応である。

インターネットエクスプローラ3.0はブラウザであるが、それと協調させて利用するアプリケーションとして、メールとニュースを読み書きするためのInternet Mail & News、および、インターネットを経由しての、文字によるチャットや音声による会議、ホワイトボードやアプリケーション共有などを提供するNetMeetingが提供されている。

今号のCD-ROMに収録されているのは2だ。基本的な操作は同じだが、若干のバグがあるので注意して欲しい。



[集中企画]

山田祥平

ActiveXが動く! ネットスケーププラグインもJavaも動く!
大きくパワーアップした

インターネット エクスプローラ3.0の 実力

業界標準と言われる
 ネットスケープナビゲーター。
 それに対抗するため急速に進化する
 インターネットエクスプローラ。
 機能の違いはどこにあるのか？
 その点を検証してみた。

ご存じのとおり、現在のインターネットにおいて、ブラウザの事実上の標準はネットスケープナビゲーターだ。各ウェブを巡回していると、まだまだ、ネットスケープナビゲーターでなければ正常に表示できないページがいくつか存在する。

ブラウザとして圧倒的なシェアを誇るネットスケープだが、それに対してまったく同等で、かつネットスケーププラグインなどを取り込めるうえ、さらなる拡張機能の搭載をセールスポイントとしているのがインターネットエクスプローラ3.0なのだ。といっても、現在のところホームページ作成者のHTMLの書き方によっては、レイアウトが崩れてしまうことも

あるようだ。また、2.0で搭載されていた行間の調節機能はHTML側で指定するため（スタイルシ

ート）カットされた。

ブラウザとして両者を見た場合、HTMLに関しては、サポートするタグの種類や機能に若干の違いがあり、それが使われている場合には、同じページでも違って見えることがある。また、ナビゲーターがプラグインでその機能を拡張するのに対して、インターネットエクスプローラ3.0ではネットスケープナビゲーターのプラグインを利用できるのはもちろん、ActiveXコントロールによって、さらにパリエーションのある機能の拡張が可能になっている。ActiveXに関してはさらに詳細を後述するが、自分で拡張プログラムをインストールするのではなく、必要な拡張プログラム

がサーバーから飛んできて自動的にインストールされるというイメージは、パソコンやOSに関する知識を持たないユーザーにもきわめてわかりやすい。しかし、その特性が100%生かされるためには対応するページが増えていかなくてはならないのだ。

過渡期の現在は、多くのウェブページがネットスケープナビゲーターで見られることを前提にページをデザインしているので、サーバーから必要なものが飛んできてくるというActiveXの特性はまだ生かしきれていないようだ。



機能比較!

インターネットエクスプローラ V.S. ネットスケープナビゲーター

機能比較表

ネットスケープ
 スケープナビゲーター 3.0



インターネット
 エクスプローラ 3.0



	HTML3.0	HTML3.2
HTMLのバージョン	HTML3.0	HTML3.2
サポートする特徴的なタグの機能	フレーム バックグラウンドサウンド クライアントイメージマップ 表の機能 表の中のカラーリング プリント（画面中の文字の点滅） embedタグ（プラグインデータなどを埋め込む）	フレーム フローティングフレーム（独立した窓でフレームを表示できる） 枠なしのフレーム バックグラウンドサウンド クライアントサイドイメージマップ 表の機能 表の中のカラーリング マーカー（画面中で文字が流れて表示される） embedタグ（プラグインデータなどを埋め込む） objectタグ（ActiveXのデータを埋め込む）
拡張方法	ネットスケーププラグイン	ネットスケーププラグイン ActiveX
主な拡張機能	ショックウェーブ リアルオーディオ VDOLive VRMLなど	ショックウェーブ リアルオーディオ VDOLive VRMLなど
実行方法	Java アプレット Java スクリプト	Java アプレット Java スクリプト（一部のページではエラーが出る）
多言語のサポート	10か国語（各国のシステムフォントが必要）	23か国語（各言語対応のlanguage support packsをインストールすれば表示可能）
運動するメール&ニュースソフト	付属のメール&ニュースソフト	Microsoft Mail&News （他のソフトも選択できる予定）
フレーム中で「進む/戻る」ボタンが機能するか		
画像を壁紙として保存する		

ネットスケープナビゲーターに対して
見劣りがした

インターネットエクスプローラだが、
3.0 になって、大幅に
パワーアップしている。

ここではまずその中核となる

ActiveX という技術について触れて、
パワーアップした点を見ていこう。

インターネット
エクスプローラはこんなに

パワーアップ した!

ブラウザーがさまざまなアプリケーションになる ActiveX テクノロジー

ActiveX は、さまざまな形態のデータをブラウザーのウィンドウの中に呼び出すためのシカケだと言える。

これによって、あくまでデータを表示させるだけという静的だったウェブページがアプリケーション的なページになるのだ。たとえば、ワープロになったり、表計算ソフトになったりといったようにウェブページが使えるようになり、ブラウザーさえあれば、他のアプリケーションは何もいらぬというような環境も夢ではなくなる。それらは ActiveX コントロールというネットスケーププラグインのようなもので実行される。

問題があるとすれば、今のところ、ActiveX は、ウィンドウズ95 しか対応していない点だ。ただし今後は ActiveX 自体が独立した標準化団体に移管されるために、プラットフォームは広がっていくと予想される。

ちなみに、インターネットエクスプローラは、HTML フォーマットのデータを表示するブラウザーとしての基本機能でさえ ActiveX コントロールとして実装されている。もちろん、Java アプレットや Java スクリプトの実行も、同様に ActiveX コントロールによって実現されている。ただ、一部のページではまだエラーがでるようだ。

インターネットエクスプローラ3.0 は、サポートしていない形式のデータを含むページを表示させようとする場合、そのページがマイクロソフトの仕様に合わせていれば、それを表示するための ActiveX コントロールが自動的にダウンロードされ、インストールされて「再生」される。ActiveX の理想形は、必要な ActiveX コントロールがインターネットのどこかから飛んでくるといったイメージなのだ。

ネットスケープナビゲーターのプラグインの場合、そのページを見るためのプラグインのありかを自分で調べ、ダウンロードし、セットアップするという手順が必要だった。しかし、ActiveX ならこれらがすべて自動化されるというわけだ。

しかし、実際にはまだ多くのページはマイクロソフトの ActiveX のための仕様に合わせていないので、一度マイクロソフトの ActiveX をインストールするためのページにジャンプし、そこからインストールしたい ActiveX コントロールを選んで、自分でインストールしなくては行けないというのが現状のようだ。



まだ ActiveX の仕様に合わせてあるページが少ないため、インストールするときには注意が必要だ。認識しないデータがあると枠線が表示され、そこをクリックすると、マイクロソフトのページにジャンプする。その Microsoft ActiveX Gallery のリンクをクリックすると、ActiveX コントロールが集まったページに飛ぶ。しかし現在は、マイクロソフトのものだけで、それ以外は自分で探す必要がある。

www.microsoft.com/activex/gallery
(マイクロソフトの ActiveX Gallery の URL)

いまみんなが興味を持っている あんな機能、こんな機能も使える

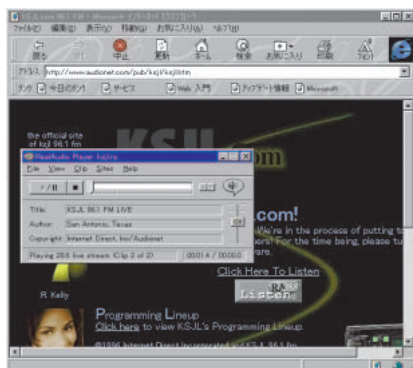
ショックウェーブ・フォー・ディレクターで遊ぶ

ショックウェーブ・フォー・ディレクター再生用の ActiveX コントロールはマクロメディアによってすでにリリースされている。マクロメディアなどのホームページにジャンプすると、ActiveX コントロールが自動的に取り込まれ、インストールされる。あとは、自動的にデータが再生される。



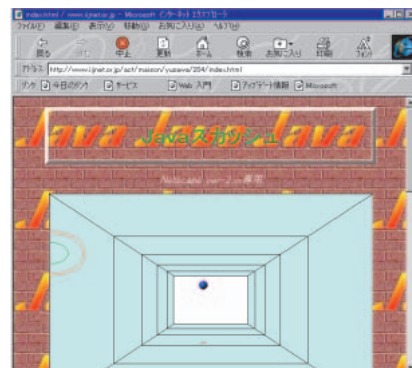
リアルオーディオを聞く

リアルオーディオデータの再生モジュールは、インターネットエクスプローラ3.0 に標準で含まれるため、パソコンにサウンド機能さえあれば、何もせずに再生ができる。インストールする必要がないので簡単に楽しめる。しかし、画面の中に操作パネルが表示されるプラグインのような形での再生に対応しているサイトは少ない。



Java のページを見る

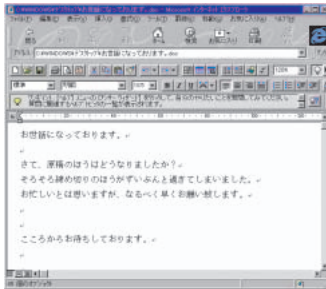
インターネットエクスプローラ3.0 から Java アプレットや Java スクリプトを使ったページが再生できるようになった。しかし、Java スクリプトに関しては、まだ動作が不安定な場合があった。また、Java アプレットを CPU が直接解釈できる形式に変換して高速に実行するジャストインタイムコンパイラーという機能もある。



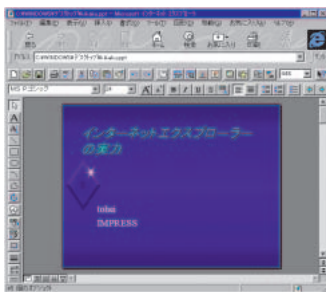
ワード、エクセル、パワーポイントなどのファイルを開ける

ツールバーなどがワードのそれに置き換わり、その場で編集などできる。ブラウザ内がワードそのものになってしまう。

ワードの.docファイルを開く



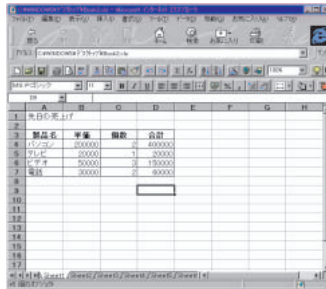
パワーポイントの.pptファイルを開く



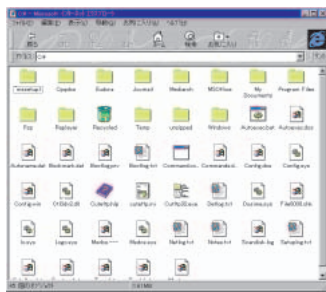
プレゼンテーション用のソフトであるパワーポイントのファイルが画面の中で再生、編集できる。データを再生して見るだけでなく、ブラウザの中でデータ編集を可能にするアプリケーションが、今すぐ実現できるのだ。

これらのエクセルなどのモジュールは、さすがに自動的に飛んでこない。あらかじめ、マイクロソフトOfficeをセットアップする必要がある。

エクセルの.xlsファイルを開く



「C:¥」などと、フォルダーを開く



ウィンドウ内はマイコンピュータそのものとなる。ただし、その中のフォルダーやファイルを開いた場合には、別のウィンドウが開いてしまい、ブラウザと連動しない。この矛盾を解消するのが次期バージョンだ。

いろいろな国の言葉が読める(ランゲージキット)



インターネットエクスプローラには各国語のフォントを含むランゲージキットが用意されている。これを使えば、韓国のハングル文字などの表示が可能になる。入手先は以下のとおりだ。

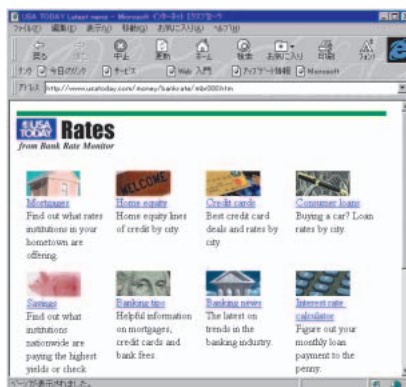
<http://www.microsoft.com/msdownload/ieadd/03.htm>

インストールしたら、ウィンドウの右下の地球マークをクリックすると、セットアップされている



言語の一覧が表示され、どの国のものを使っても、各言語が正常に表示できる。

英語のページを見るときには、手動で欧文(windows-1252)に切り替ええると見やすくなる。マイクロソフトのホームページなどは、欧文フォントが指定されているために、この手順なしで見やすく表示される。



同時にリリースされたマイクロソフトのインターネットアプリケーション

Internet Mail & News

Internet Mailはいわゆるメールソフトだ。メッセージ内にURLがあった場合、それをクリックすると自動的にインターネットエクスプローラによってそのページが開かれるといった機能を持っている。読み書きできるメッセージは、HTMLまたはリッチテキストフォーマットから任意のものを選択でき、文字の種類、サイズなどの情報を含んだ表現力の豊かなものを作成できる。ウィンドウ内には、受信トレイというメールなどの通信を管理する標準のツールが用意されているが、Internet Mailはインターネットに特化したメールソフトとしての利用を前提としたものだ。



ページ内にメール送信のリンクがあった場合、そのリンクをクリックすると連動してこのメールソフトが起動するようになる。

一方、Internet Newsは、複数のニュースサーバーを扱ことができるニュースリーダーだ。

この2つのアプリケーションは、最終的にActiveXコントロールとなり、インターネットエクスプローラそのものに統合され、画面の中でメールやニュースを読めるようになる。つまり、ウェブページを見ているイメージのまま、メールやニュースの読み書きができるようになるのだ。

Net Meeting

インターネットを経由して音声通話や文字によるチャットなどによる電子会議を実現するアプリケーション。ホワイトボードを使って走り書きのやりとりをしたり、エクセルやワードなどのアプリケーションを共有しながら、インターネットを通じて複数の側から1つのファイルを編集することもできる。

マルチボイス対応で、3か所以上のユーザーが1つの会議を開ける。相手の指定は、マイクロソフトが提供するユーザーロケーションサービスに登録された名前を選ぶことで行えるほか、相手のIPアドレスを直接指定して呼び出すこともできる。太平洋を越える距離の会話でも音質的には十分に実用になると感じられた。

配布されるインターネット

エクスプローラ3.0のインストールは、
ダブルクリックするだけだ。

ウィザードが起動して

設定しなければならない各種の
項目を、順に尋ねてくる。

これらの質問に答え、システムを
再起動すればOKだ。

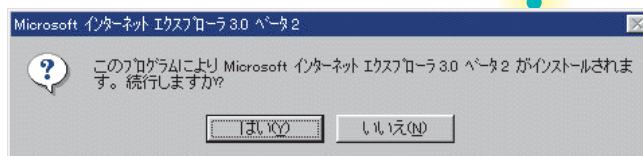
1 付録CD-ROMのフォルダ
ーをWin Msie 30の順
番で開き、jamsie 30をダブ
ルクリックする。



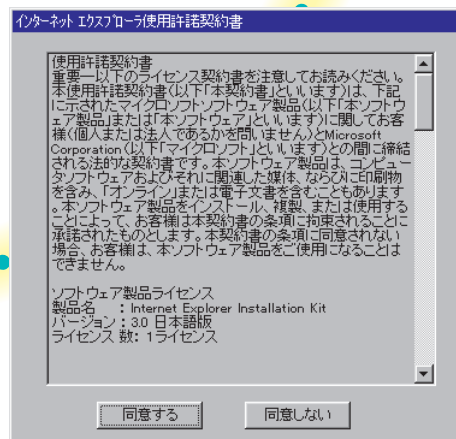
まずはインストール してみよう

基本の機能を

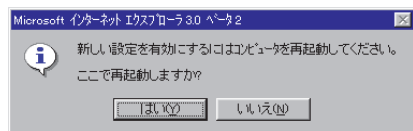
使ってみよう



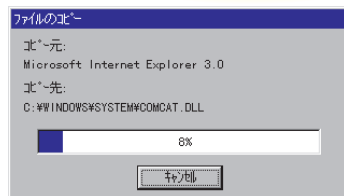
2 インストールするかどう
か聞かれるので「はい」を
クリックすると、必要なファ
イルが展開される。



3 使用許諾契約書をよく読
んで、インストールするの
であれば「同意する」をクリ
ックする。



5 システムの再起動確認ダ
イアログがあるので、「は
い」を押して再起動させる。



4 所定のフォルダに各種
のプログラムなどのモジュ
ールがコピーされる。

初めてブラウザーをインストールする ときはここに注意

インターネットエクス
プローラ2.0やネットスケ
ープナビゲーターをすで
に使っていたユーザーの
場合は、従来の設定が引
き継がれる。しかし、初
めてブラウザーを使う場
合などで、TCP/IPやダイ
アルアップネットワーク
などが設定されていない
場合には、最初

にデスクトップ上のアイ
コン「インターネット」を
開いたときに、それら
を設定するためのインタ
ーネット接続ウィザード
が起動する。ウィザ
ードの設定手順には、
「自動」、「手動」、「
現在の設定」の3種類
が用意されている。こ
のうち「自動」のま
ま進めると、MSN

(マイクロソフトのプロ
バイダー)へ入会し、そ
れをプロバイダーとし
て使うように自動的に
設定されるので注意が
必要だ。MSNを使わ
ず、自分の選んだプロ
バイダーに接続したい
場合は「手動」を選
ぶ必要がある。

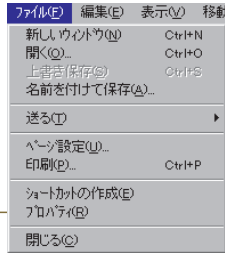
今号のCD-ROMには 2 が収録されている。なお正式
版の入手先は以下の通り。
URL <http://www.microsoft.co.jp/ie/download/>



これが各メニューの機能だ

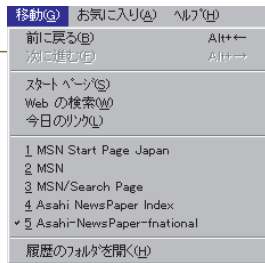
ファイル

新しいウィンドウを開いたり、表示されているページのHTMLファイルの保存や印刷、ショートカットの作成などがある。



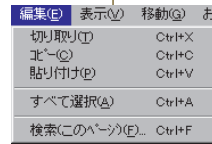
移動

今まで見たページの履歴がこのメニューに登録される。また、「履歴のフォルダ」は、新しいスペシャルフォルダだ。今までに見たページのタイトル、インターネットアドレス、前回表示日などを確認できる。



編集

文書をコピー&ペーストしたりできる。大きなページから目的の単語を含む部分を検索する際には、ここから「検索」(Ctrl+F)を実行するのが便利だ。



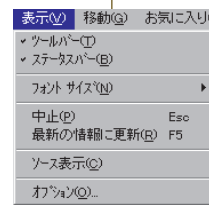
お気に入り

表示されているページのURLをここに登録できる。それをクリックすれば、そのページに簡単に

ジャンプできる。整理を選択すると、URLをフォルダに分類するといった操作が、システムの共通ダイアログよりも、わかりやすいインターフェースで操作できる。

表示

ツールバーやステータスバーの表示の有無を設定できるほか、メモ帳を



起動してHTMLファイルのソースを表示させることができる。また、ツールバーの表示形式やリンクの色などの各種設定は、このメニューの

ヘルプ

トピックの検索以外は、そのヘルプデータはインターネット上で提供される。オンラインサポートを選ぶと、FAQやバグ報告のページに飛ぶ。



ボタンの機能を理解しよう

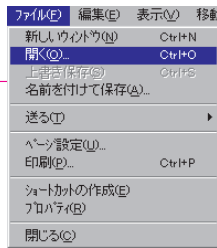
<p>戻る</p> <p>直前に見ていたページに戻る(Alt + キーまたはBack Spaceキー)。</p>	<p>中止</p> <p>ページがなかなか表示されない時などに、データの転送を中止する。</p>	<p>ホーム</p> <p>設定されたスタートページに移動する。自分で設定を変えることもできる。</p>	<p>お気に入り</p> <p>URLを登録したり、それらのURLをフォルダで階層表示する。</p>	<p>フォント</p> <p>フォントサイズを5段階で切り替えられる。</p>
<p>進む</p> <p>戻った状態から、再び次のページに進む(Alt + キー)。</p>	<p>更新</p> <p>最新のページを表示するために新しくデータを読み込み直す。</p>	<p>検索</p> <p>いくつかの検索ページのリンクが集まっているページに移動する。</p>	<p>印刷</p> <p>ファイルメニューの印刷と同じ。表示されているページを印刷できる。</p>	<p>マイクロソフトメール & ニュースをインストールするときに「メール」のボタンが追加される。</p>

URLを 打ち込んでみよう



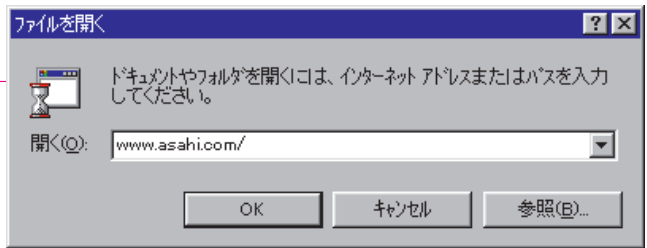
ボックスに直接打ち込む

アドレスのテキストボックスに、直接URLが打ち込める。アドレスの頭のxxx://を省略しても、http://やftp://を自動的に解釈してアクセスしてくれる。



ファイルメニューの「開く」で打ち込む

ファイルメニューの「開く」を選択することで、URL入力用のダイアログが開く (Ctrl + O)。「参照」ボタンを押すと、自分のパソコンのハードディスク内のファイルなどを参照できる。



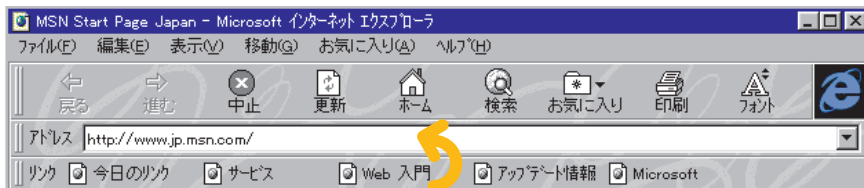
表示画面の大きさを変えてみよう



基本の画面

1

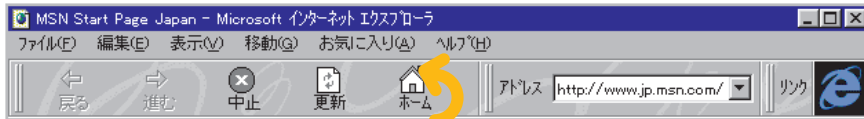
これが基本の表示画面。リンクをクリックするとリンクボタンが、アドレスをクリックするとURLを打ち込むボックスが表示される。画面との境界線を下にドラッグすると両方が表示できる。



一行分増やした画面

2

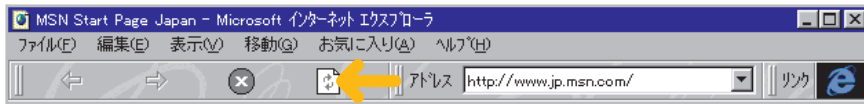
メニューバーやすべてのボタンが表示される。アドレス表示のボックスとリンクボタンが別々に表示されるが、ノートパソコンの狭い画面ではつらい。リンクボタンの下を上へドラッグすると画面を狭くすることができる。



一行で収めてしまう画面

3

リンクボタンの下をさらに上へドラッグすると、ボタンもアドレスも1行に収まる。



さらに狭い画面

4

メニューバーの下をさらにドラッグするとツールバーとアドレスとリンクボタンが1行に表示される。また、「アドレス」の表示を左にドラッグすればURLを入れるボックスが表示される。

ネットスケープ ナビゲーターのユーザーは 設定がラクチンだ

インターネットエクスプローラ 3.0は、徹底的にネットスケープナビゲーターからの乗り換えユーザーを取り込もうとしているため、乗り換えに際する手間は、最小限に抑えられている。保存したブックマー

クなどは自動的に取り込まれてそのまま使える。さらには、すでにあるプラグインなども、そのまま継続して使うことができるのだ。

また、両方をインストールすると起動時に通常使用するブラウザ

として設定しますかと聞いてくる。ここで「はい」と答えると、HTMLファイルなどをダブルクリックすると常にインターネットエクスプローラが起動するようになる。

ページをもっと見やすく
表示するための機能や
ネットサーフィンを快適にするための
機能がツールバーのボタンに
割り当てられている。

また、便利なキーの使い方も
あるのでそれらを紹介しよう。

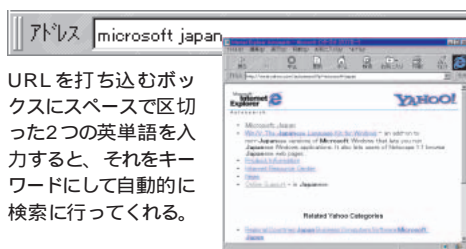
もっと便利な

機能を使ってみよう



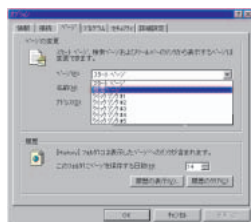
このボタンにはサーチエンジンへのリンクが集まったページ、インターネットサーチが登録されていて、クリックすると、そのページにジャンプする。

見たいページを
検索してみよう



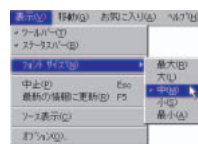
URLを打ち込むボックスにスペースで区切った2つの英単語を入力すると、それをキーワードにして自動的に検索に行ってくれる。

ボタンやリンクを押したときにジャンプするページに関しては、「表示」から「オプション」を選び、「ページ」の設定で変更することもできる。



ボタンで調節

フォントサイズのボタンをクリックするごとに、文字のサイズが一段ずつ大きくなり、一番大きくなると最小という順で切り替わる。

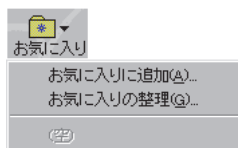


メニューで調節

メニューからフォントサイズを選べば、一度で5段階の中から目的の文字サイズに変更することができる。

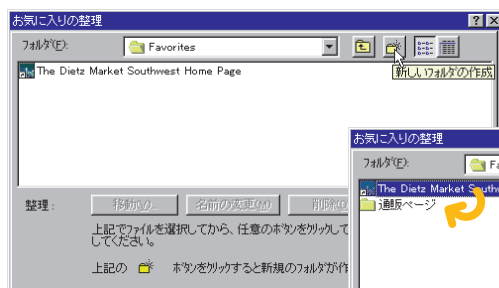
文字の大きさを試してみよう

お気に入りのページを登録しよう

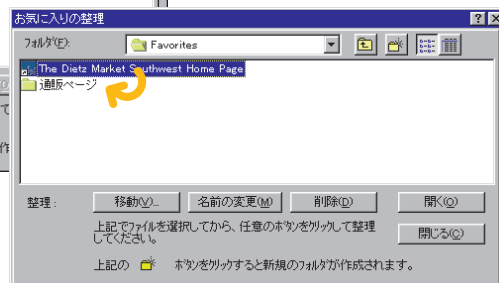


表示されているウェブページにまた来たいと思ったらこのボタンをクリックし、「お気に入りに追加」を選ぶ。URLがこのメニューに登録されるので、クリ

ックすれば一発でそのページにジャンプできる。また、登録する際に登録名を自分の好みに変更できる。



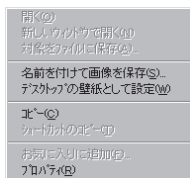
使い方はウィンドウズと共通なので、アイコンをドラッグ&ドロップしてフォルダに入れれば容易にお気に入りのページの整理ができる。



「お気に入りの整理」には専用のダイアログが用意されている。使い方はウィンドウズの共通ダイアログと同じ。新しいフォルダ

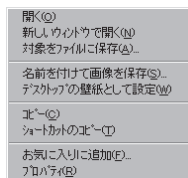
を作ったり削除したりする。また、各種のボタンが用意されている。

便利なキー操作を使ってみよう



画像の上でマウスの右ボタンをクリック

画像を保存したり、デスクトップの壁紙データとして貼り付けたりできる。なかなか楽しめる機能だ。

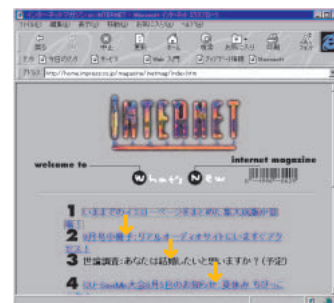


リンクの上でマウスの右ボタンをクリック

リンクを新しいウィンドウで開いたり、ショートカットアイコンを作成したりできる。ショートカットを作っておけば、アイコンをダブルクリックするだけで、そのリンクにジャンプできる。

タブキーを押す

タブキーを押すと、画面のリンクを次々に移動することができる。マウスを使わなくてもよいところが便利だ。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp